

近年、わが国においては、近所づきあいも盛んは、個人の価値観やライフで、冠婚葬祭時や困ったフスタイルの変化などに 場合はお互い助け合いが 伴い、地縁関係の変化や ありました。時には「おす

しかし、昨今では「お隣にだれが住んでいるのかわからない」とか「近所に親しい友人・知人はいない」「町内で歩いている人を見かけるが、ど

実はここ10年ほど、ソーシャル・キャピタル（近所同士の信頼感やつながり、相互助け合いという、ご近所の底力みたいなもの）が豊かな場所

災害のニュースが伝えられるたびに、ソーシャル・キャピタルが心身の健康に影響を及ぼしているということがとても実感されます。

県立看護大学 地域生活看護学領域 地域看護学 助教 井上 智代

康な生活を送っている

確かに個人の価値観やライフスタイルなど「個性」を重視することも生活の質を考えますと、とても大切であると思えます。しかし皆さんの持つ

「おたがいさま」を大切に

地域の連帯感や公共のためには何か尽くそうと思う気持ち希薄化し、身近な場所での犯罪の増加や、地域の中での子育て力の低下、高齢者の孤立・孤独など地域の抱える問題が複雑かつ深刻化しているといわれていま

そ分け」などご近所同士の信頼関係やつながり、相互助け合いの精神が盛んに見受けられ、「おたがいさま」という言葉のよ

などの言葉を多く聞かれるようになりました。都会だけのことと思う方もいらっしやると思いま

という点に着目した研究が進められ、ソーシャル・キャピタルが豊かな地域に住んでいる人は、健康

「おたがいさま」の気持ちを大切にしてみませんか。その小さな積み重ねが、知らず知らずの間に皆さんの健康に役立っている

す。かつての日本の生活

通に行われていました。わかれていきます。

着実にこのような状態が広がりをみせているとい

表されています。また、

第1日曜掲載